

第8回公共施設の整備に関する検討委員会会議録

1. 日 時 平成27年3月10日（火）午後2時～午後4時
2. 場 所 起雲閣 ギャラリー
3. 出席者 （委員）花井委員長、小松委員、船橋委員、出口委員、諏訪村委員、杉山委員、藤間委員、須藤委員、中田委員、田中委員、内藤委員 以上11名
（市側）経営企画部次長、経営企画部総務課長、同施設企画室長

4. 会議内容

（1）開会

（事務局）

ただいまより、第8回公共施設の整備に関する検討委員会を開会いたします。なお本日、原委員は欠席となっております。開会にあたりまして委員長より挨拶をさせていただきます。

（花井委員長）

今日は最終日ということで、特に今日は基本計画案というのをお示しいただいておりますので、これに沿って皆さんのご意見を聞いて、またそれを事務局の方へ投げて最後まとめて頂きたいと考えています。それでは宜しくお願い致します。

（事務局）

ありがとうございました。昨年6月から長期間にわたりまして、委員の皆様にご検討重ねていただきましたこの検討委員会ですが、いよいよ最後となりました。当初からこの検討委員会をはじめ、事務局で市民アンケートやヒアリング等の調査を実施いたしました。熱海フォーラム整備事業基本計画案ということで取りまとめまして、皆様のお手元に送付させていただきました。ちなみに11月に策定しました基本構想とセットということで、1ページめくっていただくと分かりますが、基本計画については最初は18ページ目ということになってますので、ご承知おきください。本日は委員長の方からございましたけど、この計画案についてご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

（2）（仮称）熱海フォーラム整備事業基本計画（案）について

（花井委員長）

18ページの複合施設のメリットから順に進んで参りたいと思っておりますので、まずは18ページの中でメリットなどが記載されておりますけど、これについてご意見、見直しながらも構いませんが、どなたからでもお願いいたします。

（委員）

全体で読ませていただきましたが、複合施設のメリットを最後の1番下の四角に書いてありますが、複合施設のメリットを最大に引き出すためにということで、運営を一本化することが多くのメリットがあるという結論になっていて、冊子の最後の2、3ページのあたりも官民連携ということが皆さんを説得するような内容になっているんですけど、この委員会では決してそういう方向に寄っていたわけではなくて、疑問に思う委員の方もたくさんいたということが記されていないというか、そこが印象が全然違うものになってし

まっているなと感じました。

(花井委員長)

この一本化というのは多分図書館だけとかホールだけという運営を見るのではなくて、そこに働いている、民営だろうが、100%市の直営であろうが、その一体型になって運営をするんだということを一体化は訴えているんだと思うんですね。ここはそれとして18ページを見て頂けると嬉しいかなと思います。

(委員)

相乗効果のメリット、これは旧文化会館、そのときに図書館、ホール、会議室もありました。それからみなさんが練習場みたいにしていたところもありました。それで図書館に来た方がホールを見て帰ったり、またホールに来た方がたまたま図書館があるから寄ってみようかという、そういう相乗効果がありました。来客というか見学者の数もそれで増えたというときも随分ございました。夏休みや冬休みは、特に図書館に子どもたちも大勢来ますので、催し物があると必ずそういうところに寄って見ていたりというお互いに引き合うものがあってよかったと思います。ですから今回の複合施設も必ずそういう利点ができるのではないかと期待があります。図書館に来た方が展示場を見る、展示場を見た方がたまたま図書館があるから行ってみようとか。そういう相乗効果のメリットってあると思います。維持管理という面では、これから少子化に向かって、また熱海市民の方の流出も含めて、今後の熱海市の人数が減ることが見込まれている以上はとにかく維持管理が永久に安定してできるような形でとれなければいけないということ。この冊子を見まして、特にただ良いものだけを残すのではなくて、そういう先々の方々の肩の荷を軽くするようにということを重点に置かなければいけないということも私は思いました。

(花井委員長)

ありがとうございます。他にはどうでしょう。続きまして19ページからですが、導入施設の概要、そこから関連して構成をさせてもらってそのあと細かく少し書き出して、ざっと23ページまでが同じ関連性のあるものだと思いますので、18ページ先ほどの分含めまして、19ページから23ページの中でご意見いただきたいと思います。

(委員)

6月から今まで会議を開きまして、いろいろなところから出た委員が多い訳ですが、私も市文連としましても、随分ホールや展示場について皆様に分かって頂けるように、市民の方がどれだけ困っているかということを切にお伝えしてきましたが、ホールとかギャラリースペース、ティーンズスペースなど、このところにティーンズスペースがあるのが良いなと考えました。それでこれからもっと詰めていくと思いますが、細かい意見になったときは実質使っている方々の意見というものを、細かく取り入れて頂けたら、もっと良い方向に施設を造るのに役立つのではないかと思います。もちろん発表部門の方で音楽連盟さんも一生懸命活動していますし、市文連の方としても展示でお話を別にしたり、そういう形をとっておりますが、とりあえずホール自体がだいたい400席程度とれるということで、ちょっとほっとしている部分もあります。

(委員)

ホールの関係ですが、具体的に400席がリミットということではありますが、今想定し

ているのは、固定席か可動席かどちらになるか、教えていただければと思います。

(事務局)

今現在では、基本的には方向性はここに表現させてもらっています。全般に言えることですが、検討委員会の皆様のご意見、またアンケート、パブリックコメントなど多岐にわたるご意見を伺ったなかで、ある程度皆さんの要求水準的な方向性、それを見える形で今回表現しております。今委員の方から具体的に可動式なのか固定式なのかとありましたが、特に表現しておりません。皆さんのサービス水準を満足させるようなものがあれば、それが可動式であったとしても固定式であったとしても、そこには大きな問題はないと思いますので、今後の具体的な整備を検討するなかでしっかり調整していきたいと思っています。

(委員)

続けてコンセプトの中で、汎用性の高い施設にしたいということで、19ページにもございます。1番下にオフィススペース、あるいは22ページの絵の中の賑わいの中のオフィススペースということが書かれています。これは第3回目に委員の方から、市役所の一部の部署がここに入ったり、あるいは公共的団体や関係団体がオフィスとして入ることによって、市役所だとか、県の施設だとか官公庁が一体化している中で効果が現れると、相乗効果が出るということの中で、そういうことを踏まえた形のオフィススペースなのか、ただこの複合施設を管理運営していくためのオフィススペースなのか、その辺の区分けを教えていただければと思います。

(事務局)

具体的な話はちょっと難しい部分がありますが、委員がおっしゃったように、以前委員から意見が出たように、官であれ公共性に近い機能であれ、これから具体的な検討の中である程度皆様のご意見がより出てくると思いますので、そんなことを踏まえながら、具体的な施設整備の中で、そういうものを盛り込むことが可能なかどうか。盛り込むことによって、よりよい目指すべきものの施設が出来上がるか、そういうところも検討していきたいと思っていますので、当然そういうご意見踏まえた形の中でイメージとして表現させていただいております。

(委員)

20ページの方の図書館の機能を読ませて頂きました。花井さんが日本各地の活動の盛んな図書館たくさんご存じで、こういうふうたくさん挙げていただいて素晴らしいなと思って読ませて頂きました。集客というのでしょうか、図書館は何というのか分かりませんが、たくさんの方が喜んで利用なさるだろうなというのが良く分かります。ですが少し思ったのは、いろいろな企画とか講演会とか市民に向かって投げかけてくださるのだと思いますが、それは受け取るだけのような気がしました。そうではなく、市民が自主的に動いて市民活動を取り込む文面もあったらいいなと思ったので言わせていただきます。誰にでも開かれた図書館を実現するため、生涯学習の中核ってということ書いてありますので、それはとても大事で運営する側の人たちだけのアイデアとか、もしくは投げかけるだけだと、最初はたくさん来ると思います。新しい図書館が出来ただけで皆さん来ますので。ですが最初が良くてもこの後どうなっていくのかなと思います。その賑わいがどっと続くためには、例えばボランティアなり市民活動なり、たくさん図書館に関わるのが大事だ

と思います。というのは今図書館の方のボランティアは私達の会だけですが、音楽連盟さんたちのようにいろいろ集まっているような機能は、ボランティアの部とか市民活動には1つもないというのが、とても寂しいし、図書館について意見を言う人たちがいないというのはすごく問題だと思っています。というのは市民の要望は集められないということにもつながるので、そういうことがないように、たくさんの方たちが市民活動もしくはボランティアを通じて、生涯学習の中核として役割を持つ図書館に関わるべきだと思うので、それをどこかに入れるといいのではないかなと思いました。

(委員)

生涯学習の中核として考えるのは、私も大賛成ですが、コミュニティ長泉。そのこのホール・展示場には生涯学習課が設置されております。生涯学習はほとんどホール関係また演習室全て使います。市民の方々が今度の複合施設をたくさん使うとなれば、主に生涯学習課が関連すると思います。ですから生涯学習課が長泉のホールのように、その場所に設置されていると便宜性も出てくると思います。それも一つ実行していただければなと思います。現在ある生涯学習は教育委員会の部署にあります。狭いし、とても入りづらいようなところですので、今回思い切って生涯学習課がそういうところに設置、分館でもいいので設置されると良いなと思っております。

(委員)

先ほど委員の方から、導入施設の概要のところ、オフィススペースというお話が出てきて、私もこの言葉にイメージが上手く湧かないというところがありまして、導入施設の概要と書かれているこの1行目に民間機能ということで謳われていますので、オフィススペースってあえて書いてしまうと、すごく制限がかかる。またこれを読んだ方がイメージが湧かないと、ビジネス向けの建物といいますか、そういうスペースを設けるのかということや暗に勘違いが生まれてしまうのかなと。ただここを店舗スペースと置き換えると、それもしっくりこないのかなと。この辺の言葉の選び方、もう少しご検討いただければと思います。それに合わせて先ほどの22ページのところも賑わいのところにオフィススペースと入っておりますので、もう少し上手い言葉に置き換えられればと思います。20ページ、ホールの件400席程度と書いてあるんですが、この前段でコンパクトという表現もありますので、400席がコンパクトかということも少し私の中ではしっくりこないかなということもありますので、この辺のコンパクトと書いてしまうこととか、コンパクトであっても基本的に基本性能が高いホール、暗に可動式なのか、据え置きなのかということにも、波及してくる言葉じりなのかな、文章なのかなと思いますので、基本性能の高い、当然ですけども、そういうイメージを思うと、据え置きのホールなのかなというイメージにもつながりかねないので、このあたりの表現も上手くどちらか決まってないけども、こういうイメージだと伝わるような文章に変えていくのがいいかなと思います。

(花井委員長)

今聞いてて、オフィスって私もどうなのだと思いますけども、事例ですけども熊本の図書館と複合施設も駅前にあります。起業したい人、これから会社を興したい人たちが1年間だけ借りられる部屋というのがあります。そこに今度は図書館の方へ 税理士さんとか

いろいろなプロですね、会社を作るためにいろいろなことを学ばなければいけない。そのプロがやってきて、講座をしたり相談をしたり、そういう図書館、数件あります。熊本は今頑張っていて、東京にもそういう図書館と複合施設がありますが、もしかしたらここはそういうイメージで描いてないかもしれないですけども、オフィスと書くとそのイメージをもたれる方が多分あるかもしれないし、これが出来て次のワークショップになって図面になった時に、そういうところにも波及してくる言葉かなと思ったので、外れている感じはしますが、忘れないうちに話そうかなと思いました。他にご意見はありますか。今の委員の意見で、事務局からも同じ回答でいいですか。

(事務局)

いろいろなご意見があつていいと思いますので、出来るだけ意見を言っていてそこを参考にしながら、計画策定に取り組んでいきたいと思っています。

(花井委員長)

まだまだ20ページから23ページですね。まだご発言をされていない委員の皆さんどうですか。今みたいに文章の少しひねりがあった、コンパクトとか、表現の仕方も少し目を通していただいてもいいのかなと思います。この内容も然りですけど、言葉というのは大事なんで、そこは分からなければ、少しでも疑問があれば、今の委員のように切り込んでいただければと思います。

(委員)

19ページの施設の中に、例えば図書館の機能のところ、レファレンスコーナーなどの表現がありますが、もし例えば一般市民向けに公表したときだとか、意外と分かりにくい言葉があるかと思っていますので、そこはカッコ書きでこういうことですよということを示していただければなと思います。僕はティーンズスペースというのが、構想案の中に具体的に出てきたというのが少し目についたのですが、ティーンというのは10代のためのスペースですが、こういうものはここに書かれているものを今後複合施設の中に入れていくのか、それとも1つのたたき台として、こういうものがあるよという示し方なのか教えていただきたいです。

(事務局)

ここで表現していますのは、今後の具体的に直営にしても公民連携にするにしても、ある程度いろいろなキャパシティといいますか、そういう提案が広がるようなイメージを自分たちは持っています。基本的なコンセプトは基本構想に謳われている通りですから、そこから参酌していただい形の中で、具体的な提案をしていただきたいなど。今委員がおっしゃったように、そういう考えが基本的にはありますけども、そこからどういう発想が生まれるか、そこにも期待値を持っていますので、あまり行政がこうですよということではできるだけ差し控えたいと思いますが、基本的には委員がおっしゃるような考えがそこに入っております。

(委員)

私も思っていました。ティーンズスペース、前に委員会で話が出て、委員長がご紹介してくださったと思いますが、確か10代しか入れないということだったと思いますが、それの事ですか。

(花井委員長)

今の事務局の意見を聞いてて、また委員の意見を聞いていても、想定として世の中にあるものをここに列挙されていて絶対作るというわけではなくてと僕は思いますが、これを絶対作ったスペックとして何かしらの、例えば官民連携で設計プロポーザルをやったとして、こういうのは入れときなさいよということだけではないと思います。今逆にそれはいいとなれば、ここから削除されるだろうし、意見の中でずっと上がってきたものが、この中に少しずつ入ってきているのかなと、落としたものもあると思いますが、そういうことで書かれているので逆に深掘りしていかれてもいいと思います。

(委員)

これを一般の方が読んだときに、私たちはティーンズスペースを委員長から話を伺っていたので、ある程度想像できますが、他の方たちはどうなのかなと思ったものですかからお伺いだけです。

(委員)

このティーンズスペースってここになっていますが、以前私が何回目の会合かのときに熱海の子どもたちは行く場所がない、小学生や中学生が休みの日に、どこ行こう、ただうろろしているだけです。それで図書館もちょっと遠くて山の上の方だから行きたくないという子たちもおります。それでマックスバリュウの中に本屋さんが出来ました。そうしましたら行くところが出来て良かったという、そんなような状況です。ですからティーンズスペースとここにはなっていますが、何かそういう、そこもたまり場みたいになっては困りますが、なにか明るい良い方向で、子どもたちが自由に使って、勉強することも良いし、またお友だちと会話することも良い、待ち合わせ場所にしてもいい、そういう場所があったらいいのではないかということ述べたことがあります。それがこのティーンズスペースという形になって現れたのかなと思います。これもいろいろ今の時代ですから作るにあたりとすると、問題点もいろいろできると思います。子どもたちの意見もそれに順応して聞いてみたらということも思います。

(花井委員長)

図書館のない町に今関わっているのですが、みんなが行くところはファミレスですね。ジョイフルというファミレスがあって、ジョイ勉ジョイ勉って言うのですが、ジョイフルで勉強するっていう。でも追い出されてしまいますね。そういう時にスペースがあると、武蔵野プレイスは大人は入ってはいけないってなっていましたが、熱海式で、ある時間は大人も入るとか、今後話し合っていけるといいのかなと。委員の言うように、何か子どもたちの居場所を作っていくというのはすごく良いことだと思っています。これがスペースを決めず建物自体に子どもたちが入ってくれば、それはそれで1番いいのでしょうけど、ある程度今まで入ってなかったの、入る1つの呼び込みみたいにあっても良いかなと感じました。他どうでしょうか。

(委員)

図書館機能のための施設というところで、親子のスペースってありますよね。熱海市には子育て支援センターだとか、親子ふれあいサロンなど、親子が遊べる支援施設が何個かありまして、こちらの親子スペースというのは、そういった子育て支援の機能も含んだも

の施設なのか、それとも今までの従来通りの図書館の中で児童がフラットな中で絵本を読める施設なのか、どんな形になるのでしょうか。

(事務局)

今回の計画案につきましては、全般に言えますが、ここで表記していることはある程度、先ほど委員長がおっしゃったように、皆様の意見を参酌しながら、やはり基本コンセプトに合うものとしてまとめているつもりです。それでここに記述しているものは、全てできる、やるということではありません。ある程度そういうイメージの中でこれから具体的な施設整備を検討してきます。その中で親子スペース。おっしゃっているように、近くにもサロンがありますけども、そのサロンがどうなるのかといったところも、実際に運営しているところのお話を聞いたりとかですね。そこに補完的に必要があれば作る必要がありますが、次のステップの中で具体的に関わっている方、直にそういう話を伺いながら、そういったものをどういう形で整備するかという方向性は見えていますけど、今の段階では作りますか、作りません、そういうことはないものですから、ある程度そういうイメージは持っています。果たしてそれが本当に皆さんが望むサービス水準にいくような整備をしていきたいなと箱を作るのではなくて、皆さんが満足する運営を主体に考えるというところに、今回テーマがありますので、そういったところをしっかりと皆さんの望むものを追求しながら、施設整備に向けては具体的な方向性を出していきたいと思っています。

(委員)

この親子スペースですが、図書館には静かに本を読みたいという大人の方と小さなお子さんに絵を見せたいという方が来ます。1人のお子さんもいる方もいれば、2、3人連れてくる方もいます。その方たちがやはり小さなお子様連れて、1時間とか1時間30分、図書館で本を読む場合に、授乳の時間とか、おむつ替えの時間とか飲食、飲み物だけでも飲ませたい。場所が欲しいということで親子スペースになっておりますけども、部屋という大きな問題ではなくても、図書館の隅に小部屋、簡単な仕切りを付けたところでもあれば、授乳も出来るし、またおむつ替えなんかもできるので、ぜひ必要かなと多くの方々の意見を聞いてみましたが、図書館にそういうのがあったら便利だということは伺いましたので、ぜひ赤ちゃんを連れてきた方、幼児をたくさん連れてきた方々は飲食をしたり、おむつ替え、授乳ということが出来るようなスペースが図書館の中にあつたらいいと思います。

(花井委員長)

先週ですが、ある自治体の設計審査員をしまして、105件応募がきました。1週間で105件見ましたが、委員がおっしゃったような、設計者という人たちがかなりそこを意識しているので、見た感じもそういう親子スペースとか、授乳スペースとか書いてありました。そういうことがどんどん出てきているなかで、今度は何か。今おっしゃったように、どうしたいかというのをもっと次のワークショップに。多分計画が出て、案が取れて、計画が取れてとなっていくと、設計者も決まった時に意見交換をしてくと図面もどんどん豊かになるのかなと。ただ私が見た105件の図面はまだまだ荒削りで、これからどうなってそこから1つしか採用しないわけですから、それを私たちも一生懸命見ていると。何個か手前がこの会場だと思います。皆さんにどんどん言っていただいて、事務局に渡していただいた方がいいかなと感じました。他にどうでしょうか。先ほどの委員もいる

いろ言葉を捉えていただきましたが、他の項目の中に例えば21ページとかそういうところでも、もう一度読んでいただいて、何かあればご意見を伺います。

(委員)

21ページの周辺インフラとありますが、周辺インフラにあたるのかどうか分かりませんが、建物の外観だとか建物の周辺の関係で、ここには安全に歩ける道づくりだとか、立体駐車場の事が書かれていますが、第1回目のときに委員からお話がありましたけど、やはり周辺環境とマッチした景観の喪失という話がありましたので、例えば道づくりを進めるとともに周辺関係に配慮する必要があるだとか、こんなふうにつけ加えていただくと入っていくのかなという感じがいたします。

(花井委員長)

他どうでしょうか。少し含みながら、次へ進めさせていただきたいと思います。24ページからになります。管理運営方法ですね。委員も言ってもらった部分もありますが、読んでからのご意見を頂ければと思います。26ページまで1つのブロックと考えています。見直す意味も込めて読んでいただいて構わないですが、気が付いたところから言っていただけると進むかと。

(委員)

運営方法ということが載っていましたが、何回か同じことになるかもしれませんが、ここ読むといいことしか書いていないというのが印象です。公民連携の中でも特に民間の創意工夫による事業展開など書いてありますが、良いことばかりではないとか心配なところがたくさんある訳で、そこの検討がされていないと次に進みにくいと思っております。例えばですが、図書館の運営についても、たくさん心配があるわけで、飛ばしてそこにいくのかなっていうのは、どうなんだろうと思っております。

(花井委員長)

その辺事務局はどうですか。

(事務局)

特に事務局からはないです。ご意見として伺います。

(花井委員長)

心配事はどれにも付き物だと思いますが、もしこの文章の中にそうはいつでもこれだけは入れてくれというものがあつたら、それは本当にこの会議の中で心配したまま、持って帰るのではなくて、ここで置いていった方がいいのかなと思います。ずっとこの件に関して勉強されているし、各自帰られても少し勉強されていると思いますが、ネットを見てもいろいろ意見が出てきます。私が携わっているなかでもいろいろ出てきますし、そのなかで分かる範囲であれば私も答えられますが、もう少し疑問があるということであれば、投げかけていただければ反映するしないは出て来ると思います。

(委員)

私もここでどうしても行き詰まってしまうというか、今回の委員会で皆さんの意見をたくさん拝聴していた中で、施設の概要、施設の内容という議論と管理運営の議論が若干交錯しているのではないかという気持ちがありました。今後またさらに推し進められていくときに、あくまでもこの25ページに書いてある通り、少子化、人口減、それから将来的

な財政事情に対応するためというところが、そのための手法が今のところ、これがベストであるというお考えをもっと強く強く押し出すべきではないかなと思います。それはどうしても公民連携というコンセプトでお話をすると、すぐ民間が参画すると単純に営利的というようなイメージに結びつきやすいのだと思います。でもこれは民間の運営ではなく、公民連携だよというところを、もう少し噛み砕いて、説明しないとすごく誤解されやすい部分ではないかと思います。市民の関心も高いですし、運営にあたる民間側も、もし参画した方がいらっしゃるとすれば大変な思いををすると思います。いわゆる誤解があったという前提ですね。本当に営利目的のための民間運営ではなくて、官民連携でいういわゆる官のところプラス市民連携なわけですよ。その手法の1つであるので、そこをなんとなく良い表現が出来ないかなという思いがあります。ただその表現に対するアイディアは私はありませんが、そんなことを思いました。

(花井委員長)

そうですね。そのあたりが民間企業が来て営利にするというのでは決してないと思うので、そこは民間のノウハウを使いながら、できれば市民の方たちにやってほしいというところが1つ入っていると思います。官と民という中で、市民も入っているわけですから、その方々が起業していれば、その人たちが入ってくるかもしれない。ただ単にそれが東京からもエントリーしてくるかもしれない。それいろいろだと思いますが、それをただの営利だけと民を見てしまうと読み方が変わってくるのかと。民のノウハウというものと官が管理してきちんと行政の中でやっていくというところがきちんと入ってますので、その読み込みをしながらなので、多分委員のおっしゃるように、言葉足らずのところがあるのかと。そういう意見なのかなと思います。

(委員)

今のこの議論に関係して、管理運営方法ということで、委員がおっしゃる通り市政を取り巻く環境というのが、今後将来的に高齢化率の上昇ですとか、歳入の減少が想定される中で、上手く市民と官との連携のなかで、無理のない運営が出来るように模索していますというのが、ここに謳われていますが、委員がご心配されるように、どこかこういう取り組みが今最善かもしれないという可能性をここに謳った中で、やはりその1、2ときて3として、こういったことの検討が非常に難しい中では、最終的には直営という考え方を残すとか、章立てが1つあるといろいろな方向性が担保されるのかと感じます。それとあまりにも極端に高齢化が進むとか、歳入が減少してしまうというような社会が本当にすごいスピードでやってくるのであれば、そもそも作ることも難しいのかなということも検討としては上がってくると思いますので、ただそれを作らないということが可能性としてあるということは基本構想としては書けないわけですから、それをも網羅するではないですが、直営の在り方というものも、対してこういうものがあって、今最善の方法はこういう社会状況の中でPFIとかPPPとか、こういった公民連携のものを前提として考えながら、最終的には直営の考え方もどこかには残っていますという表現が1つあるといいのではないのでしょうか。

(花井委員長)

ありがとうございます。他にはどうでしょう。

(委員)

だんだん人口が減って、維持管理が難しくなるということの1つの大きな問題かと思いますが、例えば図書館がお金がかかるということにはならないかもしれないという。というのは、この間も申し上げましたが、いろいろなところで市民が携わっている図書館がある訳で、ボランティアの人たちが図書館の中でいろいろな役割を担っているところもあるようなので、例えばコストだけのことを言うならば、そうして図書館を直営でやることも十分できるのではないかと思いますので、先ほど委員がおっしゃっていただいたように、運営の方は公民連携が1番いいとは言えない部分があるかもしれない。直営でも十分やっつけていける方法があることも、図書館についてはホールの事までは良く分かっていないですが、調べると出て来るので、おっしゃった通り直営をどこかに残していただきたいと思っています。というのは、民間になると、どうしても花井委員長はそうおっしゃっていましたが、でも一応予算がくるわけで、その中で何とかやり繰りするわけですから、そこを抑えようと思えば、図書館は人件費を削るしかないというところを書いてありまして、私もそうだろうと思います。儲かるところが他にはないので、そうすると例えば司書の方たちがたくさん入って民間になると来てくれるかもしれませんが、どの方もみんな非常勤だったりする可能性もある訳で、そうすると、まして指定管理は3年から5年と言われていきますから、民では不安定、そしたら熱海の図書館をちゃんと守っていつくれるのだろうか。やってくれるかもしれませんが、一生懸命やってくれるとは思いますが。けれどもベテランになるための期間はあまりにも短く、私たちは司書にたくさんの期待を持っていますので、そういうところから考えても直営の方がいいのではないかという話も当然ある訳で、簡単に民間に全部任す、丸投げをするということは、どうも一思いなという感じがして、ですからそのあたりを検討していただきたいと思っています。これから先運営の事に関しては、そういう意味もあってお話させて頂きました。

(花井委員長)

ありがとうございます。いろいろなパターンがあるというのを、ここでもおっしゃった指定管理またPFI、直営と、いろいろな自治体がそれなりに模索した結果をみなさん出している。ここもそうだと思います。有名になった武雄市は指定管理といいましたが、指定管理者たちが行政からいただく予算ではやっていけないので、TSUTAYAという1つの自分たちの核を持って、半分商売、そこで予算はトントン、初年度はまあ赤字ですが。それでもやっつけているというところを民間は市に寄り添いながら、運営している部分があるかなと。私はそんなに武雄市のファンではないですよ。ないですが事例としてみればそういうこともあるのかなと思いますし、逆に小布施町は直営となりましたけど、その直営というのはそこそこお金がある程度まだ出来たので、そこでやってみようということで、その議論も出ましたが。PFIは出ませんでしたけど指定管理という議論出ました。しかしとりあえずは指定管理なしで直営にして、逆に言えば、鹿児島市の指宿市は指定管理にしていますが、その市にあるNPOが経営しています。阿久根市もそうですし、結構鹿児島市、枕崎市もそうですし、そういういろいろなパターンがあるという1つがこれで、ということをお聞きいただきいただければ、もう少し分かっていくのかなということで良いですかね。他にはありますか。関連してありますが、25ページ26ページといきますが。

続きましてそれを含めながらでいいんですが、ほぼ全体的になりますけども、27ページと28ページのスケジュール感、これは今後に向けてというところと28ページがスケジュールということになっています。

(委員)

次世代に大きな負担をかけないために、考慮することが大変多いわけです。もちろん税収入の減少とか人口の減少とか、そういうことも踏まえて、先々の事が安定しているわけではないので、大変ですね。そこで良い施設を作るため、今日まで私たち議論して参りましたが、今一度アンケートを市民の方に向けて、大人だけではなく、子どもたちからも、アンケートを取ってもらって、どういうホールが欲しいか、ホールの中はどういうふうにしてほしいか、図書館の中にはどういうものがほしい、どういう形になって欲しいというアンケートをしてもいいのではないかなと思います。これは大変お手数掛かることかもしれないですが、決してそんなにお金のかかることではなく、市民の声が1番聞けるのではないかなと思います。ですから私たちも市民の代表として、皆さんこうやって出ているわけですが、これは本当にごく一部の方の意見にとどまってしまいます。ですからいろいろな年齢層に幅広くもう一度ホール建設、複合施設に関してどういう形が望ましいか。これは中学生は中学生の意見があるでしょうし、小学生は小学生、高齢の方は高齢の方というものも、もう1度意見を取り入れて、改めて選別して考えてみることも1つの方法かなと思います。

(委員)

ここの2番の枠の中に市民に参画と書いてありますけども、この中で公民連携という言葉が出てきていますが、市民の中の企業が参画するっていうことと、市民1人ひとりが企画に携わっていくということが、意味が違ってきてしまうのではないかと考えていて、私のイメージでは市民参画というと、個人個人のレベルで図書館なりホールなりの形状や企画やこういうものが欲しいというのが言えるような環境というイメージを持つのですが、ここに書いてある内容ではもう既に公民連携っていった時点で、ある種の団体というか、そういったところに委ねてしまうようなイメージがあって、突然自分たちの手から離れてしまって、もう意見を言っても通らないのではないかと不安を感じてしまいます。理想的なのは、やはり市民1人ひとりの意見が通っていくような施設の計画であるべきではないかと考えます。

(委員)

私も委員と同じ意見で、これを読んだときにいろいろなことに1人ひとりが関われることを参画だと思っていましたが、そうではなくてSPCのことを言っているのかと思いました。言い方が少し紛らわしいかなと思いました。

(花井委員長)

他にはどうでしょうか。どんどん投げただけであればと思います。

(委員)

これで最後の委員会になりますので、本当は最初ここの委員会を6月初めに来た時には、自分の中でイメージがありました。委員会を重ねていくことによって、みんなで共通のイメージを持っていくのではないかと、そういう会だと思って参加しましたが、今最

後と言って振り返ってみると、どういうものを造るかというのが、あまり自分の中で皆さんとイメージを共有できてないのではないかという、ちょっと空しい感じというか。残ってきていないなという感じがあって、今後計画の建物、器っていうのはソフトがあって出来ていくものなので、もっとどういうものを造りたいかというのを引き出していくようなシステムというか、傍聴に来てる方々も意見を言えるような環境をつくっていくといいのではないかと思います。

(委員)

委員の意見に大変賛成で、6月当初のときは皆さん意見を言いやすい環境だったと思います。こういうイメージがあって、言うことを意見交換するのもしやすい雰囲気だったと思いますが、やはり回数を重ねていくにつれて、どこかこう発言しにくいだったり、後は大きなものを造るので、ある程度決まったことの中について意見を言うっていうのは分かっているのですが、何か決められているものを聞いて、ちょっとそこはっていう意見を言うだけの会になっていて、今回これで最後になってしまいますが、正直小さい子どもを持つ母親として、次世代に大きな負担をかけない施設と言ってますが、かなり不安な施設が出来るのではないかと思います。ですのでこの検討委員会が終わってから個々でワークショップだったり、新たに意見だったりとか、検討委員会が立ち上がるのだらうと思いますが、もっと細かく真剣にといたら変ですが、慎重に考えていかなければ、いかされた良い施設を建てることはできないのではないかと思います。

(花井委員長)

スケジュールが28ページにありますけど、ざくつとしたスケジュールですけども、ここの中に平成27年度ですが、そのあたりから1つずつ決めていって、また立ち上がってっていくのではないかなと想像していますが、私もまだ想像ですが今回一旦関わりが1つ切れますので、皆さんとどうなっていくのか、まだこれからかなと思いますし、他の事例、たくさん自治体を見てきた中で、ほぼここまで計画を生むのは大変なことです。計画を生むというのはやはりいろいろな団体さんから来られていることとか、本当に発言したくて公募で来られた方とかいろいろいらっしゃいますが、そこが一旦終われば、これを本当に叩きにしてワークショップが始まりますが、私の知っている限りではこれも叩きつくして、この原型すらないようなものを次出来ていくというパターンもあります。あくまでこれに沿ってやりなさいではないと思っていて、こういうものが考えられるのではないかと。きちんと出来ていけば、これに沿ってやればいいのですが、この枠からもっとはみ出ていくというのが計画というものの1つかなと思っていますので、そこは逆に不安視しないで、1つ階段ができた、踏んだんだなど。次の階段に行くときにこれがないといけないわけで、そういうものができたと。逆にこういうものが出来たという安心感で皆さんにここは言ってもらって、次のステージはもっと市民の方の参加するステージになってくると思うので、そこに対してここに参加した委員さん、私も含めて今度は責任を持って、これをきちんと市民の人に行政が作ったからって渡すのではなくて、私もここに入っていましたと。それはここに選ばれた責任だと思いますし、そこをしていくというのが次のステージかなと思うので、そこは逆に勇気をもって言っていきたいなと思っています。

(委員)

いまの委員の拙速じゃないかという内容の話を受けて、私も少し不安に思うのは、このスケジュールを見ていくと、平成27年度実施方針の公表、事業者選定となっていて、最終的には29年度中の供用開始を目指すというようなことになっているのですが、今後2年と少し先には何らかの形が目に見えるようになってきているであろうこのスケジュールですが、市の条例ですとか、法律とか詳しくないので分からないのですが、例えば土地の取得から何年以内にどういうふうにご利用しないとか、その土地はどういうように処理しないといけないというのが、もしないのであれば何も29年度というところにとられる必要性というのは少しないのかなと。今後オリンピックの話もありますし、建設関連の業種では人員不足ということが非常に言われていますし、建設資材の高騰ということも現状としてあります。震災からの復興ということで、まだまだいろいろな建築関連のコストが高い中でちょうど29年度を過ぎた以降、少しずつ下落してくるのではないかなということが想定されるわけで、より無理なく運営される施設をトータルのライフサイクルコストで考えていくと、建設費用もそこである程度、建設費用なんていうのはトータルのライフサイクルコストの中では本当に低いことという説明を受けましたが、低いことではしょうけど、比率としては小さいかもしれないですけど、やはりイニシャルにかかる部分のコストの提言もはかっているのであれば、然るべきタイミングとか時期を、もう少し見据えてもいいのかなということは感じております。今後のスケジュールですね、実際29年度の供用開始を目指して、次年度以降も来月からどのような会議が持たれるのか、それとも持たれないのかですとか、だいたいどれくらいにSPC、PFIでやるのであれば特別目的会社がどのようなプランニングを募集するのがだいたいいつぐらいにやって、選定がいつぐらいでやって実際に建設が始まるのがどれくらいなのかというような今のところの想定だと思いますが、お考え聞かせて頂けるとありがたいと思います。

(事務局)

スケジュール、管理運営も含めまして、全体的に皆さんが見えにくいなかで、なかなか不安な要素はあると思っています。ただこういう議論ということは、1つのスケジュール感、1つの目標、その中でステージごとの段階的な議論を踏んでいきながら、徐々に形が見えてくるものだと思っています。ですから最初から具体的なところから入ったとすれば、しっかりすべき土台づくりがグラついたら、そこは形は見えても本当にいいものができるのかというところはあります。この場での議論は終わりますが、次の議論は続きます。来年度以降につきましても、やはりそういう専門的な委員の方に入って頂く。利用者目線、また利用されていない目線、運営目線、いろいろな形のなかで、委員がおっしゃったように、子どもの意見も聞きたいともありますので、限られた時間ではありますが、慎重かつ皆さんの望むようなものができるために努力は行政としてしていくつもりです。公民連携ということに、抵抗があると思っています。今行っている市の事業は基本的にはNPOであろうが、何であれ民の方が絡んでいますので、それは公民連携です。いま自分たちが時代の変化の中で何をすべきか考えたときに、今までの公民連携を検証しながらも、やはり時代の変化に即した公民連携とは何かといったところを、皆さんと議論しながら、研究しながら、少しずつ前に進んでいくといったところが必要だと思います。やはりこういう状況の中でチャレンジしていかなければ、こういう時代は乗り越えていけません。そのあたり

を踏まえた形の中で、今後も皆さんのご意見を拝聴させていただきます。受け止めながら、また違うステップの中でしっかり議論していきたいと思っておりますので、ご理解を願いたいと思っております。

(委員)

昨年6月に第1回目の会合が開かれましたときに、複合施設のホールのようなものが作りたい。そのときに夢でもいい、妄想でもいい、とにかくこうあってほしいということを取りあえず言ってください、それからだんだん詰めていきたいと思いますという話がありました。最初私も皆様と同じように、夢を描いたり、また私の後ろにはバックがありますので、その方たちの意見を聞いたりしてお伝えしてきましたが、最終的に私が思いましたのは、第1回目の委員会はたたき台、家をつくるときの土台、それに関わったのだけということ自分の胸を収めればよいと考えました。これはたたき台が無くては次のステップに進めないことであって、それからまた次の段階、次の段階って、だんだんプロの方たちの意見が煮詰まって、とりあえず素人の私たちのこういう意見がたたき台となっていくのだなということをおぼろげに今日までの間実感して参りました。それにホール建設のたたき台に自分たちになったということも1つの自分の胸に収める。自分の中の1つの思い出というのは悪いのですが、そういうことに携われた、またホールが出来たときに、複合施設が出来たときに第1回の私たちは委員に選ばれていろいろな意見を言った。通る通らないのことがあれども、通ったものがあるかもしれないし、全部通らなかつたかもしれない。もしくは半分以上通った意見が出るかもしれない。それでも携われた。このたたき台に携われたということをおぼろげに、少し胸においておいたらいかがかなと思っております。

(花井委員長)

他にはどうでしょうか。1番最後のページまで来ましたので、全体的にとということで、今一度、残りの時間で気が付いたところがあれば、意見を含めてお伺いしたいんですけど。

(委員)

そもそも論になりますが、この検討委員会の場合は、私としては白紙からの検討委員会ではなくて、当局が最初に第1回目に提示した、上宿用地に市民の為の複合施設を公民連携で造ることに対して議論してくださいという意味で捉えていました。若干自分は捉え方が違ったのかなと思ったのですが、そういった意味でそれぞれの捉え方があったので、なかなか議論がスムーズに、1つの事に対して交差しなかつたと思っております。ですから、もっと最初に提示された要素を強く意識して、意見を申し上げるべきだったのかなという思いも逆にあります。PFI等の公民連携については、コンセプト、あるいはファシリティマネジメントですか。施設の整備だとか、そういうものに関しては最近の手法に関しては、全国的な流れで国策に近い手法であるということは理解できました。それは自分なりに勉強したなかです。もしこれが公民連携の1つの時代に即した手法であるというところで、前向きに進むのであれば、本当に問題なのはこれからだと思います。例えばこの基本計画案には公民連携と謳っていますので、それが本当に実現できるのかというところなんです。もしくは地域が主体となる連携と書いてありますが、具体的な検証を進めるにあたって、例えば性能発注をするための要求水準の内容ですとか、SPCの構成基準ですとか、良く分かりませんが、ファイナンスが確保できるのかとか、そういったもの多くの課題が多く残さ

れているわけですので、実現するためには最も大事な部分ではないかなと思います。また一方で官民連携で民間が入ると、市民が民間の参画者に対して過度な期待を抱く恐れもあるのではないかと。例えば民の力なら巨大なホールやコンベンションホールを造ってくれるのではないかとか、そういった過度な期待も出て来るのではないかという思いもあります。市民に対してはそういった意味で官が民から購入するサービスが、サービスの部分と民が独自で企画して運営していく部分がきちんと区分けされていますよというところを、しっかり説明する必要があるのではないかなと。そのなかで当初からのコンセプトをぶれずに説明を何度も繰り返さないと、私共委員でも分かりにくいことですので、そういったところが今後ぜひ委員もおっしゃられましたけども、供用開始の時期ありきではなくて拙速と言われないように、説明期間、準備期間が必要なのではないかなと思います。繰り返しになりますが、上宿用地に市民のための複合施設を公民連携で造るというものが土台としてこの議論があったという思いでいろいろ発言していましたので、ご了承いただきたいと思います。

(花井委員長)

他にはご意見ないでしょうか。それではないようですので少し休憩を入れさせていただきます。

— 休憩 —

(3) 今までの検討委員会を振り返って

(花井委員長)

それでは時間も30分なりまして、ここからは市長もご参加いただいております。今日も先ほどから最後と言っております、最後と言えども次へのステップということで、ある程度この案に対してご意見いただいたとして、個々には言っておりますが、もう一度最後に皆様の感想も含めまして、今回参加してもらったことに対して、一言ずつお話を頂けないかなと思っております。

(委員)

公募で委員に入らせていただいて、これまでいろいろ議論を重ねさせていただきました。私自身もいろいろ好き勝手な事を言わせて頂いたりとかして、事務局には非常に苦勞を掛けてしまったなど反省しておりますが、最終的に今日のこの基本計画案、事前に手元に届いて目を通してみましたが、よくあれだけいろいろな方面で意見が出てきたものが、コンパクトに集約されたのかなということで、感謝いたしております。これをまた基本にして次のステップで話を積み上げていただいて、最終的に当初の目標であった、市長もおっしゃっていましたが、市民が市民のためのホールなんだということを具現化できたらいいなと思っております。

(委員)

私は熱海市文化団体連合会から推薦を受けまして、委員となりました。私の背中には熱海市民の習い事をしている方々のお声をどっしり背負ってここの委員となりました。そして委員の方々の意見を聞きながら、私でなければ分からない昔からのこと、そして習い事をしている方々のために一生懸命今日までいろいろな意見を言わせていただきました。これ

がたたき台となって、次へのステップとなるときに、少しでもお役にたてればと思います。またこれを見ましても、ホールの事につきましても、またギャラリーにつきましても、ある程度意見を通していただいたかなという文面ではございますが、これから先次々の進む段階ではどういう形になるのかなというのが楽しみでもあります。いろいろ

ありがとうございました。

(委員)

今回熱海フォーラムの検討委員会に参加できたこと、とてもよかったなと思っていますが、まだまだ少し不安に思うところがあるので、もしまたなんかの形でこういったフォーラムに関して、参加できる機会があったら、また意見を言っていきたいなと思いました。

(委員)

今回、当局の方から提示された官民連携のコンセプトに対して、1つPPPだとかPFIという言葉が出てきたことに対して、非常に戸惑いがありました。Pの意味も分からないぐらい、なんのことだろうというところから始まって、私は当局の示した案に対して具体的にできるのかなという思いを持ちながら、この委員会に参加してまいりました。知識を得る事が出来た中で、公民連携の手法であった場合は、例えば民間だとか市民、公民の民は市民の民も含まれると先ほどお話がありましたけども、そういった方々のアイディアの取り込みがしやすいということと、資金調達面で大きなメリットがあるという考えがあると学びました。一方で最後に官の側が一方向的に民間の参画者に全て委ねてしまったり、あるいは梯子はずしてしまったり、おそらくこれ運営する人はとてもいいことをやっても間違いなく風当たりが強い立場にたたされると思うのですが、民間側のケアや指導をせずに放っておくと、皆さんが心配されているような問題が発生するのではないかと思います。ですからこういったものを先に進めるのであれば、悪しき例にしないためにも、官側の役割というのも非常に重要だなという印象を受けました。というようなことでPFIの勉強をするにあたって、カタカナ用語が多くて、何度も何度も担当の職員の方のところに足を運んで聞いて大変なご迷惑をおかけしました。本当にいろいろとありがとうございました。また花井委員長に置かれましては全国的な事例ですとか、海外の事例を教えてくださいまして、ありがとうございました。

(委員)

図書館から参加させて頂きました。職員ですので自由に発言してくださいと言われても、なかなか言いにくい部分もありましたが、ただ10か月くらい参加させて頂いて、感想として思いましたことは、本来管理と運営と別の話なんですけど、建物の今回新しく建てるにあたっての検討委員会なのですが、どうしても管理運営の話は切つてきれないということで、一緒に議論してしまつて分かりにくくなってしまったなということがあると思います。私は図書館から参加させて頂きましたので、今後の検討が来年度以降も続いていくということ前提で、希望というか感想として言わせていただければ、やはり図書館という施設は本屋さんではございませんし、Amazonみたいなネットでちょいちょいと好きな本だけ選ぶということでもございません。それを念頭に置いたうえで、あくまで図書館は人がサービスする施設であるというのが根本にあります。それを十分に反映させたうえで今後の建物ではなくて管理運営の部分ですね、そちらの方のどういうのがいいかと

考えるときに1番最初に考えなければいけない部分なのかなと専門職としては思うところ
です。

(委員)

私も職員として委員に任命されたわけなんですけども、図書館、ホールどちらも今まで
に、どちらかという、ほとんど利用していない側なので、そういうコアな踏み込んだ議
論になると、議論に加われなくて大変申し訳なく思っています。その中で基本計画の中
にも案の中にも、子育て向けの子どもの居場所ということで残っているのですが、そのあ
たりの話まで議論出来ればよかったのかなとっております。今まで職員として 市民の方
と直接意見を交わすような場にはいなかったのですが、いろいろな熱いご意見を伺わせ
てもらって本当にありがとうございました。

(委員)

拙い意見ばかりで申し訳ありませんでした。ただいろいろと伺って勉強させていただ
いてありがたく有意義だったと思います。ただ1つ反省としては、もう少し皆さんの意見を
聞きながら、自分の意見を言うのではなく、妄想を膨らませるといふか、想像力を働かせ
て、人が集まる場所を作るという前提に立って、希望、理想から妄想の部分膨らませて
いって、その上で市の職員として、財源のものとか管理の面で削ぎ落して議論が出来たら
もっとよかったのかなと思います。そういう中で歩道の拡幅の話が出ましたけど、その周
辺環境のことまでここでいろいろお話が出ましたので、この次の機会あると思いますので、
この基本計画を前提にして、周辺の事を含めたまちの核として、人が集まるというのはど
ういうところかという根本の部分をもう少し突き詰めて煮詰めて、良いものをまたさらに
議論になっていけたらと思います。そのきっかけとしては非常にいい場がもっていただけ
たと思います。

(委員)

図書館の方から推薦されて検討委員になりました。今年図書館は100周年を迎えます。
県内で100周年を迎えるのは熱海と伊東だけだそうで、1番古い図書館になります。当
時はきっと戦後トップクラスの図書館でかくしか羨望を集めた図書館だったと思います。
今度100周年を迎えるにあたって式典もあるようですし、私たち熱海読み聞かせの会も
それに何か関わられるような、ボランティアとして図書館盛り上げられるようになればいい
なと今考えているところです。複合施設になった後の図書館をこの先100年、ここで新
しい階段を上がるわけで、新しい図書館になった時にこれから先100年盛り上がって
いくようなたくさんボランティアが関わる良い図書館になることを望んでいます。花井さ
んにはたくさんいろいろな図書館を教えてくださいました。私も図書館のボランティアを
20年になりますが、それも熱海に住んでいますので、よその図書館のことはあまり知り
ませんでした。検討委員になったということで、あちこちの図書館見学に行きましたり、
副市長から本をいただいたりして、勉強をさせていただきました。いろいろな読み聞かせ
の会、県内にたくさんお話を伺ったりすることもできました。私にとってもたくさん勉強
になったと思います。本当にお世話になりました。ありがとうございました。後100年
に向かって図書館を応援していきたいと思えます。宜しくお願い致します。

(委員)

公募で応募しました。私は建築士をしておりましたので、今まで箱を作るという立場でものを見てきたんですけども、今回はその前の段階で、どういうものを造るかっていう切り口で、物を見ていく事が出来たので、大変勉強になったと思っています。その中で感じたのは、やはりどういうものを造りたいという市民の人たちが意欲を持った人たちをこう集めて意見を言っていただくということが、すごく大事だなと感じました。小布施の図書館にしても茅野の市民館にしても、中でやっている方々がすごく意欲があって、こういう図書館にしたい、こういう劇場にしたいという気持ちがすごく強くあるのを感じて、そういうものなしでは良い施設というのはいけないのではないかなと感じました。

(委員)

経済界の代表ということで推薦をいただきまして、参加をさせていただきました。この熱海フォーラムが新たな誘客の施設となりますように、祈念をするわけですが、なんといっても市民が使い勝手がいいということが第1であります。市民が住み良い町は観光客にとっても魅力のある町だということにつながります。ぜひここまで第8回まで皆さん意見出していただきましたもので、会議録も非常に細かく正確に記入していただいております。これまたもう一度事務局の方でチェックしていただいて、取捨選択していただいて実現できるものは実現をしていただければと思います。そして最後にこの熱海フォーラムが公民連携の成功例となるように祈っております。

(花井委員長)

ありがとうございました。皆さんの意見聞い市長も来て頂いていますので、一言お願いできますでしょうか。

(齊藤市長)

みなさま、花井委員長を始め、この委員の皆様には置かれましては、これは今年の6月17日、これが第1回目の検討委員会でしたが、本日までこの熱海フォーラムの整備事業について熱心にご議論いただいたこと、まずは心からお礼申し上げます。本当にありがとうございました。これまで合計で8回の検討委員会の他に、官民連携の勉強会、また先ほどご意見あった通り、現地での視察もご参加いただきました。市民の集う場、また市民の生活を豊かにするには、どういう機能が必要なのかということをご検討いただいたわけです。本日ご審議頂いた基本計画の案ですけども、この後行政で今月中に基本計画として決定することになります。またその後ですけど、これまでの基本構想、基本計画をもとに、さらに具体的な検討段階に入っていきたいと思っています。みなさんのご意見を聞かせて頂きまして、この10か月分ぐらいを振り返りまして、とにかく私は委員の皆さんに意見を言っていただくということを重視しました。自分もそれなりの思いあるわけですが、とりあえず封印しまして、とにかくいろいろな意見を言っていただこうと新しい施設に対する思いや花井委員長からは妄想するというキーワードがあったと思いましたが、まさにそのことをやっていただきたいというのが私の思いでした。皆さんの意見を聞かせて頂きまして、かなりの部分皆様の妄想がその中に反映されたのではないかなとそういう印象を受けています。そういう意味では、非常に有意義な委員会になったのではないかなと思っています。自分はこの事業を進める当初から市民参画というキーワードに非常にこだわりがございました。今日で委員会は最終回ということになりますが、これから具体的な事業の推進

に入って参ります。この複合施設が完成するまで、そして完成してからも市民の皆様との関わり合いというのが重要になります。皆様にもさまざまな形で今後とも関わって頂きたいと思っております。そのことが熱海フォーラムを起点とした、まちの活性化につながると思っております。最後になりますが、今後とも皆様のお力添えをお願い申し上げまして、私からのお礼のご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

(花井委員長)

ありがとうございました。6月から御縁をいただきまして、長野から熱海の土地へ毎回来ました。その中でも今現在6つぐらいの図書館建築に関わってるんですけども、その1つに熱海の中に御縁が出来たという、行政の方が多いい中で検討委員の中で市民の皆様と御縁が出来たということ、僕の宝物になったかなと。ただこれが今後どういうふうに熱海フォーラムが進んでいくのかということは、私がどのように関わるかとか、これでどうするかというのを置いておいたとしても、一国民として皆様の活躍を拝見させて頂きたいなと思っておりますし、しいては何かしらお手伝いできることがあれば、馳せ参りたいなと思っておりますので、よりいい本当に世の中に熱海から発信できるようなものができますことを、お祈りしております。拙い司会をずっとやってきましたけども、8回の中でどうもありがとうございました。それでは事務局へお返ししたいと思います。

(事務局)

委員の皆さん、お世話になりました。自分たちは行政として知らない部分もあります。やはり行政は市民のために何をするべきかということ常を常に時代の変化と共にやっていくつもりでいます。先ほども言わせてもらいましたが、これだけ大きく変化していく状況の中で、熱海の子どもたちを守り育てていくということも考えたときに、皆さんと気持ち是一緒だと思っております。これからの具体的に進めるにあたっては、そういう思いをしっかり受け継ぎながら、これから努力していきたいと思っております。これからのいろんな形でお関わりがあると思っております。関わっていただきたいと思っております。これを御縁にしながら、町が一体となって進めていくことができるといいと自分は思っております。本当に長い間ありがとうございました。これを持ちまして最後の検討委員会を終了いたします。

以上。